

伊藤家住宅 (いとうけ・じゅうたく)

伊藤家住宅のある花巻市東和町田瀬の覚間沢(がくまざわ)地区は、江戸時代の旧盛岡藩領の最南端にあたり、仙台藩領の学間沢(がくまざわ)地区に隣接しています。

この地域は、直屋(すごや)と南部曲屋(なんぶまがりや)の両方が建てられていた地域で、曲屋のうちでも小さな住宅だったことから国の指定となりましたが、昭和53年の修理時に母屋と馬屋が別々に建てられていたことが判明しました。本来は直屋であったことから、建築当時の形に復元されました。

屋根は、東北地方などに特徴的な芝棟で、これは屋根頂上の木枠の中に芝土を入れて棟とし、その中に乾燥に強く根張りの良い植物を植えることによって、棟を一層強固なものとし、風雨に備えるというものです。

建築年代がわかる資料はありませんが、18世紀前半(1701~1750)頃の建築と推定され、岩手県南地域の民家としては古い建物の一つです。



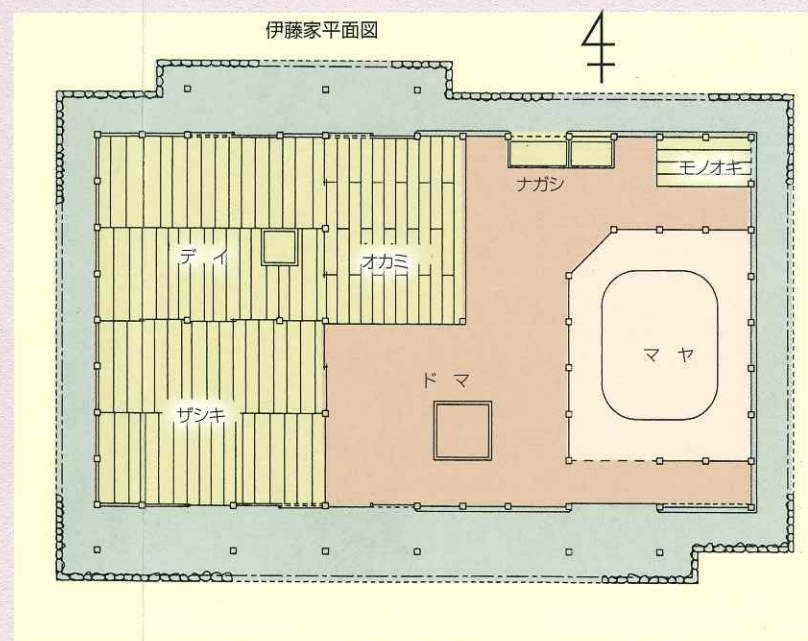
▲伊藤家の全景
田園風景の残る地域にあるため、その茅葺き屋根の景観と併せて、山村の原風景が感じられます。



▲住居内の炉端
大きな炉(いろり)が、土間に作られていて、暖をとるとともに、馬釜なども掛けていました。



▲伊藤家の土壁
窓など開口部が少なく、柱が外側に現れない土壁は、この地域でも特に古い建築のたたずまいを良く伝えています。



所在地: 岩手県花巻市東和町田瀬22区77
名称: 伊藤家住宅 (いとうけ・じゅうたく)
構造: 寄棟造、茅葺
母屋: 桁行き13.6m、梁間7.5m
指定日: 昭和51年2月3日
<公開時間: 9:00~16:30 休館日: 月曜日、11月1日~4月30日>